

「京都舞鶴港国際フェリートライアル事業」 記録報告書



平成 2 4 年 8 月
京都舞鶴港国際フェリー
トライアル実行委員会

<事業概要>

- 1 目 標 将来的な国際フェリー航路の開設
(日本海側拠点港目標：平成 37 年度)
- 2 目 的 (1) 物流ルートとして確立するための荷主の発掘
(2) 観光ルートとしての魅力発信
(3) C I Q等手続き面の検証
- 3 期 間 平成 24 年 7 月 30 日 (月) ～ 8 月 3 日 (金)

4 参加者

- <日本側> ①行政、②各商工会議所会頭等経済団体、③連合婦人会、ステップあけぼの、④モニターツアー (府民)、⑤ファムトリップ (旅行業者、マスコミ) 等、計 395 名が京都舞鶴港から乗船
→ 経済団体を中心に 130 名が浦項で下船し、釜山経由で帰国。
- <韓国側> 浦項市長を始め行政、経済等 201 名が浦項市から乗船

往路 395 名、復路 466 名 合計 861 名が参加

5 主な行事

日 程	概要 (主な行事)
7 / 30 (月) (船内)	■ 出港セレモニー (舞鶴市民等、約 150 名が見送り) ■ 京都舞鶴港セミナー (参加約 150 名) ■ 日韓文化交流の夕べ (韓国の伝統芸術舞踊、芸舞妓の日本舞踊)
7 / 31 (火) (浦項市ほか)	■ <行政・経済界> ・ 経済交流推進セミナー (日本 160 名、韓国 75 名) → 「国際フェリー定期航路開設に向けた日韓共同宣言文」読み上げ ・ 歓迎レセプション ・ <small>クリヨンボ</small> 九龍浦日本人家屋通り、ポスコ視察 ■ <一般モニター> 慶州・浦項観光ツアー ■ <京都府連合婦人会> 浦項市女性文化会館を訪問、女性団体協議会と交流。その後、慶州を観光。

(船内)	■日韓交流の集い（北部7市町長と浦項市長によるPR、プレゼント抽選会。参加者約350名）
8/1 (水)	■日韓女性団体交流会（浴衣とチュマチョゴリの着付け体験） ■京都舞鶴港到着、入港セレモニー（舞鶴市民約150名が出迎え） ■日韓地域間交流会議（北部7市町長と浦項市長で「日韓地域間交流推進のための宣言」を読み上げ（府議会議員等立ち会い）：舞鶴21ビル） ■韓国訪問団による舞鶴市内視察（赤いガ`博物館、五老カタワー） 〈舞鶴市内泊〉
8/2 (木)	■韓国訪問団による宮津市内視察（天橋立）、京都市内視察（清水寺） 〈京都市内泊〉
8/3 (金)	■韓国訪問団による京都市内視察（金閣寺）、関西空港から帰国

6 成果

- (1) 事業目的であった①物流ルートの開拓では、経済界から約180名の参加を得て、今後の荷主発掘のきっかけができた。②人流では、ファムトリップを初めとするツアー参加者に、日韓の世界文化遺産を繋ぐ観光ルートとしての魅力発信ができ、③CIQ手続きでは、両国の入国管理や税関が簡素化の工夫を行う中で、迅速かつ的確な対応を実現するなど、初期の目的を達成。
- (2) 延べ861名の集客を達成し、集客目標延べ800名をクリア。
- (3) 韓国浦項市で開催の日韓経済交流セミナーでは、日韓の行政・経済関係者約250名が参加する中、知事、舞鶴市長と浦項市長が、国際フェリー定期航路開設に向けた日韓共同宣言を行い、定期航路の早期開設とそれによる両地域の経済交流と発展を確認。
- (4) 舞鶴市内で開催の日韓地域間交流会議では、北部7市町長と浦項市長が、日韓地域間交流推進のための宣言を読み上げ、将来的なフェリー航路開設と経済交流の発展を進める本格的な地方外交を日韓双方の基礎自治体ベースでも努力することを確認。
今後、京都舞鶴港が海外からの物流や人流の新たな玄関口となり、企業立地の促進や雇用拡大、観光産業の振興などの面で、京都府北部全体の経済発展に、大きく貢献することが期待。
- (5) 女性団体の交流会では、日韓各団体の活動報告に加え、伝統衣装である浴衣とチュマチョゴリを相互に着付け体験するなどの異文化交流を図ることで、より身近な隣国として認識。
- (6) 浦項迎日湾港と距離の近さ、瀬戸内海よりもリードタイムの短さ、世界遺産を繋ぐ航路としてのポテンシャルの高さなど、京都舞鶴港を使ったビジネス・観

光利用が十分に可能であることを、多くの経済界や一般モニターの方々に実感してもらいことができ、航路をつけて行く第一歩を踏み出せたと確信。

7 今後の展開

- (1) フェリーの収益の8割は物流であるため、まずは荷主の確保が必要であり、今回の参加団体企業へのポートセールスを日韓で取り組むとともに、今後、必要に応じ物流トライアル等を実施しながら、航路開設に向け、日韓が協力しながら取り組む。
- (2) 府北部地域に200名もの韓国人が観光された初めの体験を踏まえ、今後の観光資源のPRや受入体制づくりに生かしていく。

(参考)

- ・京都では平成26年度に京都縦貫道が全線開通し、浦項市でも同年にソウル駅－浦項駅間でKTXが開通するなど、日韓双方で国内交通網が整備され、大きな成長が見込める航路になると期待しており、各方面の協力を得ながら全力で取り組む。